

文化財担当者専門研修「建造物保存活用基礎課程」について

文化遺産部建造物研究室では、行政に所属する文化財担当者が歴史的建造物（文化財建造物）の保存・活用にかかわる基礎知識を修得することを目的として、本年度新たに標記研修事業を企画し、実施しました。

今回、6月20日から24日の5日間、北は北海道から南は鹿児島まで、20名の県や市町村に所属する研修生が奈良文化財研究所に集いました。日本建築史や調査、制度、修理、管理活用等の研修棟での座学のほか、矢田の大和民俗公園で民家、法隆寺で社寺の調査概論、奈良県文化財保存事務所が実施している當麻奥院方丈と當麻寺仁王門の修理工事現場で保存修理についての臨地講義をおこないました。行政の文化財担当者でも実際の建造物修理現場を見学することは稀なので、特に當麻寺では修理にかかわる技術者や大工さんの話を皆さん大変興味を持って聞いていました。

建造物研究室にとって初めての主催研修であり、研修生が大勢であったこともあって、不慣れな点多々あったのですが、研究支援推進部の援助を得てなんとか所期の目的を達成できたのではないかと思います。

今回、現場が奈良県ということもあって、研修内容は近世以前の主として木造建築にかんすることが多かったのですが、研修生が実際に実務として携わるのは近代建築が多いので、次回以降は近代建築に焦点を当てた研修プログラムを工夫しようかと考えています。

（文化遺産部 林 良彦）



當麻奥院での研修風景（奈良県文化財保存事務所山下技師による奥院方丈の瓦の説明）